

第21回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和元年10月18日(金) 15:30～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】(敬称略)</p> <p>相宮 一夫 (岐阜乗合自動車株式会社営業管理部長) (代理:宮部 敬輔)</p> <p>吉岡 実 (名鉄バス株式会社営業本部運行部運行課 運行課長) (代理:久米 裕之)</p> <p>豊田 智隆 (東海旅客鉄道株式会社鉄道事業本部総務課課長代理)</p> <p>菱田 純二 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>山田 健太郎 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長)</p> <p>鷺見 高志 (岐阜乗合自動車労働組合執行委員長)</p> <p>木村 徹之 (稲羽・川島自治会連合会長)</p> <p>坂井 俊郎 (蘇原自治会連合会長)</p> <p>松岡 節夫 (那加自治会連合会長)</p> <p>水上 将司 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>清水 孝子 (八木山地区社協事務局長)</p> <p>鈴木 隆史 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>中村 澄之 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>沢木 利勝 (岐阜土木事務所施設管理課長)</p> <p>吉田 三紀 (各務原警察署交通課長)</p> <p>坂澤 博光 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>倉内 文孝 (岐阜大学工学部教授)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部商工振興課</p>

- ・委員長あいさつ
- ・議事 ①「各務原市地域公共交通網形成計画(後期計画)」の策定について
- ・報告 ①参議院議員選挙にあわせた利用促進の取り組み実施結果
②令和元年度ふれあいバス等懇談会の開催結果
- ・その他

■委員長あいさつ

委員長 挨拶

皆様、本日は足元の悪い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

今年の9月末でふれあいバス・ふれあいタクシーを再編してから4年を迎えました。10月1日には、各地区で皆様から寄せられた意見をもとに、路線・ダイヤの一部改正を行った次第です。昨年10月から今年の9月に関しましては、約1年間で延べ23万人の方に利用していただき、前年に比べまして1万人ほど実績を伸ばしている状況にあります。その背景に、高齢ドライバーの方の運転免許自主返納などがあります。

こういった状況を踏まえまして、本日は令和6年度までの5年間を見据えた「各務原市地域公共交通網形成計画(案)」につきまして、皆様にご審議いただければと思っております。市民の皆様のニーズが多様になる中で、公共交通を通してのあり方をどう考えていくかという課題を分析し、持続可能な方法を検討していく上で非常に重要な計画となります。

本日は皆さまからの忌憚のないご意見をいただければと存じます。

■議事

議事①「各務原市地域公共交通網形成計画（後期計画）」について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>＜岐阜運輸支局 鈴木委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1－4ページのふれあいタクシーに係る評価理由について、利用者の固定化が課題とあるが、固定化ではなく、使いたいのに使えていない人がいることが課題ではないか。 ● 1－8ページの成果指標に、ふれあいタクシーの記述が抜けているのではないか。 ● 本計画の中でタクシーをどのような位置づけにしていくか、新しい交通との関連性を説明してほしい。 	<p>＜事務局＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふれあいタクシーについては、利用客数の伸び悩みが課題である。デマンドタクシーは、利用者が特定できるといった特徴があるため、固定化を反省点として挙げている。さらに、新規顧客の拡大が必要であると考えます。 ● ふれあいタクシーの表記がない部分については、明記し直す。 ● 本計画の6ページにおいて、公共交通の考え方について取り上げる中で、乗用タクシーは計画において対象とすると記載している。利用者のニーズは多岐にわたるので、従来の鉄道などの大量輸送から、少人数で多方向に輸送できるデマンドタクシーの拡充を図っていくことが必要であり、個人輸送である乗用タクシーとの線引きも重要だと考える。
<p>＜岐阜県タクシー協会 山田委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 月に1回以上公共交通を利用している人の割合には、一般のタクシーが含まれていないように感じるが、各務原市における公共交通の中に、一般のタクシーを含んでいると考えていいのか。 	<p>＜事務局＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘の部分に関しては、認識のずれがあるため、今後訂正を検討していく。市としては、公共交通の中に一般のタクシーを含めて考えている。

意見等

<岐阜乗合自動車 宮部委員>

路線バスに関しては、現状のサービスを維持していきたいと考えている。ふれあいバスに関しては、各務原市の網計画に沿って、市と一緒にダイヤの設定等を考えていきたい。

<名鉄バス 久米委員>

昨今の従業員不足にともない、路線の維持が厳しい状況にはあるが、お客様の足の確保のために現状のサービスを維持していきたい。

<東海旅客自動車 豊田委員>

先日の台風19号接近に伴い、計画運休等を実施した。前回の地域公共交通会議で紹介した運行情報の提供が役立った。スマートフォンで現在の運行状況や運休・運転再開の見込みを見ることができ、バスとの乗り継ぎなどの問い合わせにも対応できた。

<名古屋鉄道 菱田委員>

利用者数は、前年横ばいの数字であり、定期券の利用者が多い。インバウンドでの利用で外国人の方が犬山駅から乗車することが多くなっているのではないかと。今後ともご利用していただきやすい環境を整えていきたい。

<岐阜交通東部 石井委員>

ふれあいタクシーの告知が不十分であると感じるため、住民の方のための乗り方教室を多く行っていきたい。また、10月1日からふれあいタクシーの予約サイトをリニューアルし、利用者の方からは見やすくなったという意見をいただいている。

<岐阜乗合自動車労働組合 鷲見委員>

現在のバス事業は、厳しい要員不足や平均年齢の上昇に伴う長時間労働が進行している。仕事に対して運転手を割り当てていく方式ではあるが、7～8割ほどしか埋まらず、残りは休日出勤や時間外労働で対応し、朝早くから夜遅くまでといった労働状況にある。

高齢者の自動車事故が多発していく中で、今後公共交通の役割は極めて重要なものになると考えている。利便性や安全性を考慮した移動手段の拡充に取り組み、職場環境や走行環境の改善に努め成り手を増やし、バス産業を発展させていきたい。

<稲羽・川島自治会連合会 木村委員>

川島地区に鉄道を通してほしいが、現実的ではないことは承知している。今後、車の運転ができなくなることを真剣に考えて、デマンドタクシーなどの導入を検討していきたい。また、導入するために住民としてどう動いていく必要があるかを考えていきたい。

<八木山地区社協 清水委員>

乗らないのではなく乗り換えなどが分からず乗れない人が多くいると考える。元気で判断力があるうちに乗っておくことが大切だと考えるため、八木山地区では公共交通を使う体験をしようと取り組んでいる。

地域独自の移動手段を導入する際に、ふれあいバスが100円であるから100円にしようという話がでるが、法律の関係（白タク）でできない。市にも地域の会議には参加していただいているので、これからも技術的上限の立場で応援してほしい。地域独自で登録不要の仕組みを進めていきたい。公共交通を利用することで、公共交通が走り続ける地域にしていきたい。

- ・報告① 参議院議員選挙にあわせた利用促進の取り組み実施結果
- ・報告② 令和元年度ふれあいバス等懇談会の開催結果

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><蘇原自治会連合会 坂井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1－9ページのふれあいバス利用者数を令和6年度に207千人と予想しているが、平成24年に16万人、平成30年に20万人となっている。なぜ、利用者数がもっと増える想定ではないのか。 	<p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近年、ふれあいバスの利用者数は、年間約1万人増加している状況にある。稲羽線・川島線の増加が中心であり、要因としてリニューアル後の航空宇宙博物館へのアクセスとして利用しているのではないかという見方をしている。その中で、博物館への入館者数が昨年度は50万人弱であり、今後博物館への入館者数の維持は難しいと考える。 また、1－9ページの数字は、平成30年度の実績を載せているが、人口減少時代の中で様々な要因によって、利用者の増減があると予想される。そのため、参考までの数字として記載している。
<ul style="list-style-type: none"> ● 3種類ある交通系 IC カード (manaca・TOICA・ayuca) を、1つに統合するような動きはあるのか。 	<p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道に関しては相互に利用できる。ayuca は岐阜バスが先行して、IC カードを導入し完成した仕組みである。市としては要望として出している状況である。 <p><岐阜乗合自動車㈱ 宮部委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 要望として受けている状況ではあるが、費用面から難しいため、現状維持を考えている。
<p><鵜沼自治会連合会 水上委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異常気象により、突然に公共交通機関が運休になることがある。緊急時の対応としてどういった対応があるのかも含めて公共交通のあり方を考えてほしい。 	<p><東海旅客自動車㈱ 豊田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運休などの際は、振替輸送を行うようにしている。長期の運休については、バス事業者と調整して代行バスを走らせる場合もある。 <p><名古屋鉄道 菱田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当社も同じく、振替輸送を行うようにしている。

意見等

<那加自治会連合会 松岡委員>

子どもの数の変動や利用者の声など、地区によつてのニーズを考え、老人養護施設や介護施設などに行つて、ふれあいタクシーの乗り方を説明する場を設けるとよい。

<稲羽・川島自治会連合会長 木村委員>

出前講座をしているという話があつたが、子どもだけではなく保護者に対しても子どもの利用についての意識づけを行う必要がある。

■総括

倉内先生 総括・指摘事項

- 網計画に関しては、多岐にわたつて緻密に検討されているので、パブリックコメントに進めていってほしい。清水委員の方から住民主体の取り組みの話があつたが、住民主体で何かをやりたいという意見について、計画の中に具体的な内容を書き込む必要性はないが、市として今後注視していく必要がある。
- 報告①の選挙に伴う取り組みは非常に良い。実績として利用客数が増えているなど効果的であると感じた。特に、選挙に合わせたことでまんべんなく選挙権を持つ方々に行き渡る方法であつたと思う。利用券にQRコードを付けることで、直接公共交通の情報を提供できるようにしていくといい。
- 木村委員が話した子どもと親の関係では、モビリティマネジメントの取り組みでも子どもに働きかけると同時に親にも働きかけるような取り組みがある。そういったものを公共交通の取り組みにも今後入れることを検討していってもらえると良い。

■その他

報告等

<岐阜交通東部(株) 石井委員>

弊社の六軒営業所で本年10月4日に行われた中部運輸支局の一般乗合自動車監査において、道路運送法第27条3項に定められている特定運転者に対する運転適齢審査を実施しなかつたという違反があり、本年10月15日から1車両10日間営業停止の行政処分となりました。ふれあいタクシーの運行には支障はありませんが、大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びするとともに、再発防止に向けて取り組んでいきます。

大変申し訳ございませんでした。